

INFORMATION

二〇二二年一月一日
時 十時三〇分より
場所 徳泉寺本堂
内容 勤行 法話

新年最初の法要を、元日の朝
勤修いたします。新しい年の始
まりをご門徒の皆様と共に迎え
できればと思います。ご無理の
ないところでご参加ください。

今月のことば

がんば
願生る

お子さんが間違って書いた字を、お母さんが大切に受けとめた言葉です。
忍耐し努力しとおす「頑張る」ではなく、願いに生きると書いて「願生る」。私たちは何を願われているのか、何を願って生きているのか。根本を確かめる言葉ではないでしょうか。

境内の花々



サザンカ

住職法話「凡夫」(抜粋)

親鸞聖人は自らを「煩惱具足の凡夫」と称されました。私たちは何かに悩まされるというよりもそれを感じる心に左右され、周りの環境に支配されて生きています。良くも悪くも周りとの関わりの中で生きていくから、どうにもならない現実や思い通りにならないことに当たったとき、思い通りにしたいと思う自分に親鸞聖人も何度でもあったのではないのでしょうか。そういう自分である、と自覚する大切さをこの言葉に込めたのだと思われまます。私たちは凡夫ですから、いつも苦しみや辛さに向き合える前向きな心ばかりを持っていくわけではありませぬ。心に向き合うことは大切ではあるけれどもそうできないときもある、と認め、阿弥陀が願いをかけてくれたこの身を引き受けて、いつか向き合える時が来ると信じて安心して生きていいのではないのでしょうか。

前住職法話「人間になるということ」(抜粋)

「花は花が咲いて花になる」というように人間も「人間になる」ということがあるのではないのでしょうか。自己実現という言葉がありますが、自分とは何でしょうか。どこで自分になっていくのでしょうか。阿弥陀仏が私たちに「あなた自身を生き切ってください」と呼びかけ願を立てた四十八願の一番最初に「無三悪趣の願」があります。三悪趣(地獄IIごめんなきいのない世界)(餓鬼IIありがとうのない世界)(畜生IIブリーズのない世界)のない浄土を誓ったこの願から考えるに、これはどこかにある世界ではなく私自身を見つめていくとそういう有様が見えるということだと言えます。あなた自身はどういう有様をしているか見てください、そこから自分が本当にあるべき姿を問い続けてください、と言われているのでしよう。

一月同朋会
お休みです

毎年「同朋会新年会」を行っていましたが今年も中止とさせていただきます。いつかまた近いうちに再開できますように。

『徳泉寺報』後記
2021年の終わりに徳報がちょうど50号になりました。毎月毎月この通信を読んでもう方々のお顔を思い浮かべながらの50号でした。足を運ぶことがかなわなくても繋がりを感じていただけたらこんなに嬉しいことはありません。